

波リミ

連日のように痛ましい事故や事件、弱者高齢者を狙う犯罪や国際規模で行われ

る卑劣な詐欺が報じられている▼防犯カメラやドライブレコーダの映像、ネットワークの活用で、犯人の特定や逮捕、事故原因解明のスピードアップも感じられる。安心と安全を守る仕組みが着々と整備されているようだ▼「防犯のプロ」と呼ばれる防犯設備士の育成と、「防犯機器の安心マーク」として信頼を得ているRBS（優良防犯機器認定制度）の認定事業を推進している。日本防犯設備協会（日防設）の片岡義篤代表理事に話

を聞く機会があった▼開口一番、代表理事は「刑法犯認知件数は02年の285万件をピークに減少し続け、昨年は82万件を記録。警察だけでなく各省庁、企業、国民が一致協力して治安の確保に努力した成果だ。とはいえ総数では捉えられない犯罪に対する体感不安は解消されていない」と強調▼さらに「日防設は人の暮らしを支える住まいや生活環境を守る防犯機器の性能向上と、設備開発・設計・施工・防犯診断のできる人材育成に取り組んでいる」と話し映像4K化や既設ケーブル活用のIP化など、取り組みを強調した。防犯設備士はスマートシティー推進には不可欠な存在だ。